

**製造業安全対策官民協議会**  
**第7回サブワーキンググループ（向殿 SWG）検討会**  
**議事要旨**

平成 30 年 9 月 3 日（水） 13：30～15：30  
安全衛生総合会館 8 階大教室

1 出席者

出席者名簿（資料1）のとおり

2 議事

会議冒頭、向殿主査より挨拶があった。

- ・ 前回 SWG にてお願いをした意図的なルール違反等に関するアンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。
- ・ 現在、本 SWG で検討しているテーマ（意図的なルール違反やヒューマンエラーをリスクに反映させる方法の検討）は、非常に難しいが面白い内容である。活発に議論をお願いしたい。

(1) リスクアセスメントの共通化手法の検討について

事務局より資料3、資料4-1、資料4-2、資料4-3（非公開資料）の説明を行なった後、意見交換を行なった。内容は下記のとおり。

- ・ 分類が49あるとのことだが、どこに分類されるかなど、厳密にするのか。
- ・ 分類されている場所が団体の考えと異なる場合があると思うが、再度確認を行なう予定はあるか。  
⇒ トライアルを行なって、分類も含めて改善点を提案していただきたい。まずは事務局からの提案として提示した。なお、資料4-2は会社名等が推測できるような情報は削除しているが、修正を希望するものがあれば教えて欲しい。
- ・ 公開資料、非公開資料の考え方だが、本協議会は他の業界の良いところを広めていくのが趣旨である。資料4-1や4-2（意図的なルール違反やヒューマンエラーの分類）は、あまり気持ちの良い資料ではない。  
⇒ こうやって現場のハザードやリスクを出し合って災害を未然に防ぐのが好事例であり、素晴らしい取り組みだけを並べるのが好事例ではない。
- ・ 評価項目が1つ増えて全てプラスされるということなのか。
- ・ 加算するには違和感がある。加算するという表現ではないのではないか。また、別の評価項目を入れると企業は受け入れにくいのではないか。  
⇒ 例1と例2はトライアル的な考え方である。問題点を出していただければよい。
- ・ 重要なことは、リスクを見積もるときに意図的なルール違反とヒューマンエラーの可能性を考えること。
- ・ 災害に至る可能性を考える際にこの資料4-1、4-2を考えて見積もるのが自然で、別途加算するというのは不自然である。  
⇒ 項目は1つ増えるが、評価や計算方法はそれぞれのやり方でいいのではないか。
- ・ 49項目で一番評価が高いものがAなら全部Aでよいか。  
⇒ 足して平均するようなものでもないで、それでよいのではないか。  
⇒ 最も安全意識の低い人や新入社員で見積もることが重要。
- ・ 足し算ばかりで引き算がないので、数字を調整しないと可能性の項目がどんどん高くなっていく（危害のひどさ<可能性）。今回の例示の点数に意味はないかもしれないが、これだけが一人歩きしていくのは注意すべきである。

- ・ このリストをハザードの特定に活用することもできると記載があるが、どういうことか。  
⇒ 安全機能が無効化されることを前提にハザードリストを作成することなどが考えられる。
- ・ 49項目は実際に使おうとすると多すぎる。15ぐらいが現実的ではないか。
- ・ 大項目は9個なので、ざっくり考えるのも必要だろう。似たようなものをまとめて項目を減らすことも考えることが必要。トライアルを行なって、改善点を提案して欲しい。
- ・ 「ソフト対策」と「ハード対策」という言葉を「管理的対策」と「工学的対策」に直してほしい。

(2) 横浜大会での発表について

事務局より資料5の説明を行なった。なお、9月11日の全体WGと全国大会では向殿教授が発表を行なう。

資料5については、数値化の図を修正すること、本SWGの議論を反映させることとなった。

(3) 設備点検・補修・更新基準の共通化について

三菱ケミカルリサーチより資料5の最終ページを用いて前年度の成果について説明があったほか、資料6を用いて今年度の事業について説明があった。今年度もアンケートを実施するので、各団体には昨年度に引き続きご協力をお願いしたい旨の発言があった。

(4) その他

厚生労働省よりあんぜんプロジェクトのリーフレットについて案内があった。見える安全活動コンクールの事例を現在募集している(9/3~10/31)ので、奮ってご参加いただきたい。

業界団体で把握している好事例などを代理で提出できるのかの質問があり、担当者に確認することとなった。

(次回SWG会合(第8回検討会):平成31年1月~2月はじめを予定 ※別途日程調整を行なう)